

令和7年度 第2回学校関係者評価委員会議事録

鹿児島県立鶴丸高等学校

1 日 時 令和7年11月13日(木) 15:00～16:30

2 場 所 本館3階 研修室A

3 出席者 計17名

評価委員(5名)

- ・本校同窓会副会長 (卒業生代表)
- ・建築事務所代表取締役 (地域代表)
- ・私立短期大学教授 (地域代表)
- ・公立中学校長 (中学校代表)
- ・本校PTA副会長 (保護者代表)

学校側出席者(12名)

- ・校長
- ・教頭(2名)
- ・事務長
- ・教務課主任
- ・生徒指導課主任
- ・保健課主任
- ・進路指導課主任
- ・1学年主任
- ・2学年主任
- ・3学年主任
- ・教務企画係

4 会 順

- (1) 校長あいさつ
- (2) 学校評価実施要項について
- (3) 学校経営の概況について
- (4) 信頼される学校づくりについて
- (5) いじめ防止対策について
- (6) 各課の課題と取組(5課:教務, 生徒指導, 進路指導, 保健, 事務)
- (7) 各委員から

5 質疑応答

(1) 学校経営の概況について
特記事項なし

(2) 学校評価アンケートについて
特記事項なし

(3) 信頼される学校づくりについて

- 指導と評価の一体化を図るために单元テストに変えたとのことだが, どのような利点があるのか。
→ 評価されるスパンが短くなるため, 生徒が单元ごとの振り返りをしやすく, 弱点も見つけやすい。また, 教員にとっても適宜指導法の改善が可能となる。
- 不登校生徒に対する学びの保障について。3年生で受験を控える生徒に対しては, 遠隔授業は+αで何かしてくれているのか。
→ まずは本人の健康を第一に, 本人の状況に合わせつつ必要な措置を講じている。
- 高校は義務教育と違って単位制である。同時双方向型遠隔授業について, 実技を伴う科目についてはどのように扱っているのか。
→ 基本的にオンラインで授業に参加している時間は出席扱いで, 参加していなければ欠課扱いとなる(例: 体育では, 校庭だと電波が届かないが, できる限りの競技で実技をしてもらうようにしている。不可能なものについてはレポートを課す等で対応している)。

○ 同時双方向型授業において、教室にいるカメラに映りたくない生徒たちへの配慮はしているのだろうか。

→ 教室の後方から、板書と教諭の顔を撮影する形をとっている（補足：本校では、あくまで全日制課程であることを基本線とした上で、遠隔授業も取り入れている。また、もし保健室や別室等での学習を望む生徒がいる場合は、その生徒の意思を尊重し、学級担任や教科担任等と話し合いながら別室に入るもしくは教室で受けるなど、生徒の状況に合わせて教育の機会を確保している。これらを通して、子どもたち一人ひとりに学びを届けられる方策を日々整えているところ）。

（４）いじめ防止対策について

特記事項なし

（５）各課の課題と取組

○ 昨年度から定期考査が単元テストに変わったが、１年を通して、学校全体の学力の底上げに繋がっているという実感はあるか。

→ 大学入試等の合格実績が出たときに、結果が分かることもある。現状としては、各教科で基礎基本の徹底や応用力、思考・判断・表現力を身に付けるために試行錯誤しながら工夫している。実際、週に２～３回の単元テストに追われている生徒もいる。これらの反省を受けて、協議しながら今後改善を重ねていく。

○ １年生のストレスマネジメントについて、どのようなことを実践しているのか。また、１年生は新しく高校生活で友人ができると思うが、相手を大切に協働しながらチーム鶴丸で学校生活を過ごしてほしい。先生方にもサポートをお願いしたい。

→ 鹿児島大学の先生に講習会をしていただいている。ストレスマネジメントの手法を実践して、効果が出たという生徒もいる。

○ 入学時の高校入試の学力が、近年とそれより前とではどのくらい違いがあるのか。数的な評価があれば教えてほしい。

→ 入学してくる生徒の層は学力が高い生徒たちで、年ごとに入学時の学力の変化はさほどないと感じている。ただし、ネット環境が変わったり、スマホの所持率も高くなったりと、ＡＩやデジタル機器等を使う時間が増えてきており、深く考えることができない生徒が少しずつ増えるのではないかと危惧している。教員としては、授業の中で、立ち止まって考える場面をつくるなどの工夫をしている。

○ 学校適応対策委員会のメンバーと内容について教えてほしい。

→ 学年主任、養護教諭や管理職など１１人の職員で構成されており、なかなか学校に来られない生徒についての現状把握や手立て、これからの授業について協議をしている。同時双方向型遠隔授業への参加の方向性についても協議している。

（６）各委員から

○ 授業参観を最初にさせてもらったが、校内の掲示物等、情報提供がきちんとなされており、また生徒の資質を高める取組が日々行われていることを再確認できた。同時双方向型遠隔授業が始まったことにも感謝しており、これからの活用の仕方に期待している。３年生の大学入試に向けた対策がもう少し早くてもよいのではないかと感じる部分もある。また、同窓会として、海外派遣事業はできる限り支援させていただきたい。今後も鶴丸生の成長と活躍を楽しみにしている。

○ いじめ防止対策についての説明がされたが、１年間でこんなにたくさん取り組まれているということに驚いた。たいへんありがたいことである。生徒がまず、学校で安心し「楽しい、快適だ、おもしろい」と感じることで健全な成長につながると考える。なかなかネットや表に出ないいじめもあるのかもしれないが、先生方の対応のおかげで現在のところ、生徒たちは元気に過ごせていると思う。できればいじめがゼロになるように努めていただきたい。

○ 生徒の力が入学後にどれくらい伸びたのかという数値的評価が見ることができれば鶴丸高校での生徒の頑張りが、明確に検証できるのではないか。

- 毎回、本当に落ち着いた状態で生徒が授業を受けられており、先生方も頑張っており、さらには生徒が満足感を得られるようなイベントづくりをしており、感謝している。

鶴丸高校のアドミッションポリシーを見ると、その中に「困難に挑戦し、乗り越えようとする強くしなやかな精神力を持った生徒」とある。鶴丸高校の数ある学校行事の中で一見きついように思える行事も、生徒の達成感と成長のために、ぜひ前向きな声かけをお願いしたい。さらには、生成AIの使い方について、高校生は先を見据えながら使い方を学んでいってほしい。また、精神安定という点から、マインドフルネスに着目した手法も取り入れていってほしい。1年生に対する三点固定の指導という取組もすばらしい。今回の会はよい学びの場であった。

- 生徒に主体性をもたせつつ、教師が寄り添っていていることが感じられる会となった。感謝している。

- 6 今後の予定
第3回委員会（2月中旬）
自己評価（最終）評価，教職員との対話，意見交換